

春日部市の地域公共交通について



← 議会の様子はこちらのQRコードよりご覧いただけます



鬼丸 裕史



自動運転車や電動モビリティ、MaaS(マース)(Mobility as a Service)、空飛ぶクルマなどの次世代モビリティは単なる技術革新だけではなく、人口減少・高齢化・環境問題・労働力不足といった社会課題を同時に解決する可能性を持っています。

現在春日部駅付近連続立体交差事業と一体となって中心市街地の再生を図り、埼玉県東部の中核都市にふさわしい都市拠点の形成を図るため、中心市街地の再開発が進められておりますが、これに伴い公共交通の在り方も見直すチャンスであると考えます。2年前に閣議決定されたデジタル田園都市国家構想総合戦略においては、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指し、自動運転における地域交通に関しては、2027年度までに100か所以上で全国に実装する。これに向けて意欲あるすべての地域が導入できるようあらゆる施策を講じる。とされていることから、地域交通における自動運転の社会実装は、確実に進んでいくことが想定されており、全国的にも自動運転バスの実証実験が我先にと国土交通省に申請しておるのが現状です。そこで春日部市の自動運転バスに対する認識と導入可能性について伺います。



自動運転バスについては、国や県が社会実装に向けた支援を進めていることを踏まえ、技術動向や他自治体の事例を注視しながら、持続可能な公共交通ネットワークの実現に向け、導入可能性について、情報収集を進めている状況です。現時点では、具体的な導入計画はありませんが、中心市街地の再開発に伴う交通インフラ整備との連携など、自動運転バスに対する研究を段階的に進め、その効果等について認識を深める必要があると考えております。自動運転車両は、その運行にかかる経費が非常に高額であること、交通渋滞の発生や実証運行中の事故などもあり、実用化までの課題が多い状況であり、引き続き国の動向や他自治体での実証運行の状況を注視していく必要があると考えております。

東埼玉消防の広域連携 ・協力について



議会の様子はこちらのQRコードよりご覧いただけます →



水沼 日出夫



近年の激甚化、大規模化する災害に対応するために取り組んできた、応援体制強化策としての、東埼玉消防指令センターの目的や内容を伺う。



令和8年度からの東埼玉消防指令センターの消防指令業務共同運用については、119番通報の受付と同時に災害発生時の情報の一元化による応援出動が可能となり、相互応援体制の迅速化が図れ、より効果的な出動体制など将来を見据えた持続可能な消防体制を構築し、住民の安心・安全の向上に努めて参ります。



県外の災害にも対応している本市緊急消防援助隊の災害出動実績を伺う。



国内における大規模災害又は特殊災害の発生に際し、消防庁長官の求めに応じ、又は指示に基づき、被災地消防の応援等を行う部隊で、これまで東日本大震災を始め、数々の災害に出動して、災害派遣先での任務を完了し、事故怪我無く帰隊しています。

(出動隊員・本部隊員の皆さん、本当に感謝、感謝、感謝、感謝、感謝!!)



国や県が推進している消防の広域化について、本市の考えを伺う。



消防の広域化については、地域住民の安心・安全の確保を最優先に、広域化・連携の利点と課題を総合的に勘案しつつ、最適な体制の構築に向け、国および県の動向ならびに近隣消防本部の取組状況を引き続き注視していきます。